

第6回 かけがえのない「いのち」を守る座談会

報告書



令和7年11月9日（日）、富山大学杉谷キャンパスにて、本学と「くすりのシリコンバレー TOYAMA」創造コンソーシアムとの共催事業「第6回 かけがえのない『いのち』を守る座談会」を開催しました。

本事業は、富山県の未来の医療やくすり産業を担う有能な人材の育成につなげることを目的に、県内高校の1・2年生を対象として毎年実施しており、今回は、医師・看護師・薬剤師・研究者などを志す85名の高校生が参加しました。

初めに、酒井理事・副学長から開会の挨拶が行われた後、座談会は第1部・2部形式で進められました。

質疑応答は、参加者が「手のひら型プレート」を掲げて意思表示をする独自のスタイルで行われ、斎藤学長はじめ、医薬系の若手教員や薬剤師、現役学生たちに次々と質問が投げかけられるなど、会場は終始活気に満ちていました。



Topic プログラム

12:30～ 受付
13:00～ 開会挨拶 酒井理事・副学長
13:05～ 第1部 斎藤学長講話
13:35～ 学長と語り合おう
14:20～ 第2部パネルディスカッション
「いのち」を守る仕事について考えよう
16:30 閉会

Topic 参加者

富山高等学校
富山中部高等学校
富山東高等学校
富山南高等学校
吳羽高等学校
高岡高等学校
高岡南高等学校

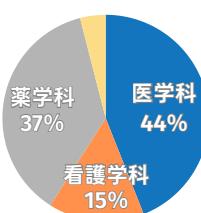
福岡高等学校
滑川高等学校
南砺福野高等学校
大門高等学校
富山第一高等学校
片山学園高等学校

県内 13 高校、計 85 名参加

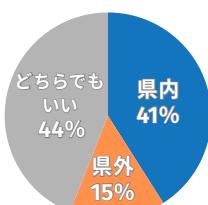
Topic 参加者アンケート（回答者27名）



Q. 一番関心のある学科を1つ選んで下さい



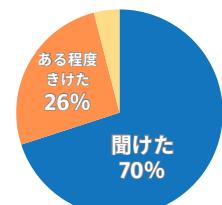
Q. 進学先は、どちらを希望しますか？



Q. 今回「いのち」を守る座談会に参加して良かったですか？



Q. 自分の知りたいことを聞くことができましたか？



- 医学科 (12人)
- 薬学科 (4人)
- 看護学科 (10人)
- 創薬学科 (1人)

- 県内 (11人)
- 県外 (4人)
- どちらでもよい (12人)

- 良かった (25人)
- ある程度良かった (2人)
- あまり良くなかった (0人)
- 良くなかった (0人)

- 聞けた (19人)
- ある程度聞けた (7人)
- あまり聞けなかった (0人)
- 聞けなかった (1人)

「いのち」を守る仕事について考えよう！



| 第1部 | 学長講話 学長と語り合おう

第1部の学長講話では、斎藤学長が「これから医療のあり方」と題して講演を行いました。その中で学長は、医療の本質を理解し、生徒自身の将来の職業選択に役立て欲しいと呼びかけました。また、近年の医療環境の変化に触れ、医師単独ではなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、公認心理師、臨床工学技士等が連携して一人の患者を支える「チーム医療」の重要性を強調しました。

さらに、治療の選択肢を提示し、患者と共に方針を決定する「シェアード・ディシジョンメイキング（SDM）」の観点からも、医療従事者にはコミュニケーション能力の研鑽が不可欠であると語りました。

この後、学長と語り合おうの時間では、高校生より、「富山大学における外国人留学生の状況」や「AIによる創薬の変化」等、活発な質問がありました。

学長からは、本学の留学生受け入れ状況や、国際化における英語力の重要性について説明がありました。また、創薬分野については、AI活用による開発スピードの向上が期待される一方、動物実験などAI技術のみでは完結しない課題も残されている点について言及がありました。



| 第2部 | パネルディスカッション

パネリスト

本学附属病院の木戸医師（診療助手）兼清薬剤師、平野助手（看護学科）、大石講師（薬学部）、条助教（和漢医薬学総合研究所）の若手教員・医療従事者に加え、医薬系学部の学生4名が登壇。

第2部では、はじめに各パネリストから、現在の仕事内容や所属学科の魅力、医療・研究の現場における「やりがい」や「醍醐味」について、熱のこもった紹介が行われました。質疑応答では、高校生から「いのちを守るために必要な能力は何か」、「失敗したときの乗り越え方を教えて欲しい」といった、医療人の資質や精神面に関するものなど様々な質問が寄せられました。

パネリストからは、病気の知識を持つことは大前提として、患者さんを「生活者」として一人の人間と捉え、理解しようとする姿勢が不可欠であることや、人である以上、様々な失敗は避けられないが、大切なのは失敗を恐れることではなく、それを成長の糧としていくことの大切さが語されました。

さらに、学生生活や効果的な勉強法についての質問には、登壇した先輩学生たちが、自らの実体験に基づいた具体的なエピソードやアドバイスを披露すると、参加した高校生たちはメモを取るなどして熱心に聞き入っていました。

また、富山県厚生部くすり振興課の宮島主幹からは、地方行政の立場から薬剤師が果たす役割や業務内容について紹介があり、医療資格を持つ人材の活躍の場が多岐にわたることが示されました。



| 終了後 | 個別相談会

座談会終了後、個別相談会を実施しました。会場内の学科別コーナーには、多くの生徒が詰めかけ、和やかに相談が行われました。参加者からは、「個別相談会は、皆の前で聞けなかったことも、マンツーマンで話が聞けて大変良かった」などの感想が寄せられました。



参加者アンケート（感想）



学長講話、学長と語り合おう

- 今の医療に必要なことや医師としての働きがいを知ることができ良かったです。
- 学長の考え方や経験に基づいたお話、さらに入間の受精の様子を初めて映像で見ることができて良かったです。
- ひとつひとつ丁寧に話してくださり、分かりやすかったです。
- 普段聞くことの出来ないような話や医療技術の進化、医療の課題など、自分自身の新たな発見や学びに繋がるような内容でとても楽しかったし、以前よりも医療についての興味関心がますます高まりました。
- 学長から富山大学の特色や医療における大切なことなど様々なお話を聞くことができ、とても有意義な時間でした。
- 富山大学で行われている取り組みについて知ることができて良かったです。
- 私は助産師になりたいと思ってこの座談会に参加させていただきました。学長さんが産婦人科医だったので、この職業についての理解が一段と深まりました。この高校生活の日々を自分の進みたい道へ進むことができるよう頑張ります。
- 今まで医師は一人で働くものだと少し不安に思っていたが、医師は1人ではなくチームでやるものだと言う事を知り安心しました。
- 今までより医学部について理解を深めることができました。今日の講話で富山大学の特徴や魅力をたくさん知りました。医学の道では英語が大事になると分かったので、これからも勉強を続け、英語だけでなく幅広い知識も身につけていきたいです。
- 在学生の30%を留学生にすると言う目標を知り、富山大学ではたくさんの外国人と話す機会があるところにとても惹かれました。
- 学長自身の体験などを聞くことができて良かったです。また、自分のこれからの行動を見直すきっかけとなりました。
- 各学部のアピールポイントやすべての学部において必要とされる能力に対してどのように今努力するべきなのかがわかりました。また、医療はそれぞれの専門家だけで働くのではなく、チーム医療としての意識が大切で、医師や薬剤師、看護師などが協力して患者さんに携わることが大事だとわかりました。
- 学長さんの貴重なお話を沢山聞くことができて良かったです。医療は知識を共有し合うことが大切だと聞いたので、学校の授業でも一生懸命取り組んで友達に教えたりしていきたいと思いました。
- 自分の医療に対しての知識が不十分だとわかり、様々な新しいことを知れて良かったです。また、学長が生物に興味を持ったり、産婦人科医を目指した理由を聞いて、私も自分の感動したことや強く興味を惹かれる方向に素直に進みたいと思いました。
- 質問に対する答えが想像の10倍以上は長く、とてもためになる話ばかりでした。現在の医療を様々な視点から語ってくれていてとても感動しました。



パネルディスカッション

- 今の医療だけでなく、これから医療に必要なことや、それぞれの分野の選択肢の広さなどを知ることができて良かったです。
- 先生方や学生さんの話から、仕事の詳しい情報やどのような考えをしているのかを学ぶことができました。
- 臨床現場の意見、研究者の意見、学生の意見など多方面の意見を聞けて良かったです。
- パネルディスカッションでは、実際に働いている方々の感じていること、今までの経験談など、高校生のうちから参考にできそうなこともあり、とても有意義な機会になりました。
- 他の高校生の考え方も質問を通して知ることができ、いろんな考えに触れられる良い機会となりました。
- 医師、薬剤師などの方、そして学生さんまで様々な医療に関わる方からお話を聞けて視野が広がりました。
- どの職業も患者さんの命が関わるものなので、自分勝手な思い込みで判断せず、しっかりと病気の知識を身につけることが大切だとわかりました。失敗した経験やそれをどのように乗り越えたのかを教えてもらい、これから的生活の中で活かしていきたいです。
- 医学部を目指していますが、薬学部にも興味があります。どの方の話からも学ぶところがあって面白かったです。モチベーションが上がりいました。
- 大学生や現役で働いている先生方の声を聞くことができ、とても良い機会でした。将来の夢を決める際は、自分のこれまでの経験を活かせば良いということが学べました。
- 学生さんや先生の実体験を聞いたことで、今後の自分の行動を考えるきっかけになりました。
- 実際に医療の現場で働いたり学んだりしている人のリアルな声を聞くことが出来て良かったです。医療職の魅力や「いのちを助けることはどういうことなのか」について理解を深めることができ、医療職に対する憧れがより一層強くなりました。
- 現役の大学生の話を聞くことができ、どのくらいの時期に大学を決めて受験勉強を始めたのかなど、リアルな情報を得られました。医師や薬剤師、看護師として働いている先生たちの実体験を通して、「『失敗は誰にでもあり、初めてで失敗することがないことはない』というポジティブな気持ちでいることによって、予想外なことにも対応することができる」と前向きの言葉に、挑戦することの大切さを改めて感じました。
- 医療系といってもさまざまな職種の方のお話を聞くことができて、自分にとって非常に貴重な経験となりました。そして、これから進路を考える上で選択の幅が大きく広がりより多種多様なことに興味を持つことができるようになったと思います。
- 「失敗を次の自分の成功につなげる」という先生方の言葉がとても心に残りました。自分も失敗を悲しい経験として残すのではなく、自分をレベルアップさせるきっかけにできるようにしたいです。
- 先生ではなく人生の先輩としていろんな質問に真剣に答えてくれていた気がしました。
- いろいろな分野で活躍されているパネリストの皆さんからの貴重なお話を聞くことができて、自分の進路の参考になりました。

参加者アンケート（その他の要望など）

来年度の開催に向け、運営・企画など、全体を通じて良かったこと

- 座談会のあとに直接質問や相談ができる機会を設けていただけたのが嬉しかったです。
- 札をあげて質問できるところが良かったです。
- 質疑応答の時間がしっかりと取られていてとても良かったです。
- 講演後の個別相談がとても聞きやすかったです。
- 医学について理解を深めることができ、大学やこれから的人生をはっきりと考えるきっかけとなりました。本当に参加して良かったです。
- 現役の方とのパネルディスカッションはこれからも行うべきだと思います。また、オリジナルグッズはとても良かったです。
- 初めて発言する人が優先的に話せるように工夫されているのが良かったです。
- 進路について迷っていたので、現役の学生さんたちと医療に携わっている人たちの体験や仕事について実際に聞けて良かったです。
- 先生方だけでなく学生さんからもお話を聞くことができたのが良かったです。医療を多角的な視点から見ることができ、自分の少なかった知見の幅が一気に広がりより立体的に捉えることができました。そして、医療に対しての興味が更に高まりました。
- 個別相談会では人前では緊張してできなかつた質問ができたのでとても良かったです。
- 先生がみんな優しくて親しみやすかったです。
- 最後にご用意していただけた個人相談会が座談会で聞けなかつたことも聞け、マンツーマンで話を聞かせていただけた大変良かったです。
- 学生同士でグループを作り、話し合う時間が欲しいと思いました。
- 医師の中でも科が色々あるため、今回は自分が興味のある科について聞けなかつた事が残念でした。
- とてもスムーズな運営でした。
- もう少しパネルディスカッションの時間が長かったら良かったと思いました。



富山県の医療や医薬品産業の未来に期待すること

- 地域医療の充実、「薬の富山」としての発展を望みます。
- 漢方薬に関する分野が更に発展して欲しいです。
- 富山県は昔から漢方などの医療が有名なので、新しい薬の発見や医療技術が発達することに期待したいです。
- 富山の医療がより発展して、都内の病院と変わらないレベルになることを期待します。
- これからも薬の富山が有名になるように努力し、富山から世界へと医療を発展させていって欲しいです。
- がんを予防する薬の開発をお願いします。
- 「くすりの富山」から生まれる新しい薬が世界中の人々の健康を守り、まだ治療法のない病気には苦しむ人々の希望となって欲しいです。また、富山大学を中心とした研究が、伝統的な知恵と最先端の科学を融合させ、未来の医療に貢献していくって欲しいです。
- 医療施設の設備の充実が進むと良いと思います。以前、大学病院に入院していた際、天井や壁の劣化などをいろいろな場所で感じました。
- AIやデジタル技術などの最先端技術を更に取り入れつつも、「くすりの富山」としての和漢薬などの伝統的な医薬品産業はぜひ守っていって欲しいです。富山は国内全体で見れば地方ですが、だからこそ、この富山という地で医療を発展させ、「医療といえば富山」と言われるよう地域全体の医療水準をあげていくことを期待しています。
- 富山県内のどこにいても安心して平等な医療を受けられることを願います。